

(別紙)

令和4年度 第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和5年3月14日(火) 15:00~17:00

関東森林管理局 東京事務所会議室(書面及びWEB会議併用形式)

2 議題

- (1) 各地域の木材需給動向
- (2) 国有林材の供給調整の必要性等

3 検討結果

原木の出荷状況は順調で、製材、合板工場の原木在庫の増加により荷動きは鈍いが、価格は一定の水準を維持している。国産材製品については、輸入材の港頭在庫が依然として高水準なことから引き合いは弱く価格も弱含みとなっており、製材、合板工場では減産や入荷制限が行われている。今後についても輸入材の在庫調整の継続や物価高による住宅着工への影響等が懸念され、需給、価格動向は不透明であり、情勢を注視する必要がある。

以上のことから、現時点では国有林材の供給調整までには至らないと判断されるが、国有林においては、各地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むため、引き続き関係業界等から情報収集を行い、情勢を注視するとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう検討をお願いする。

4 主な情報、意見

○ 原木、製品ともに荷動きが悪く、特に製品は3月以降非常に悪い。原木市場では入荷が順調なため在庫がだぶつき気味。一方、このような状況下でも原木価格は持ちこたえており、引き合いもある。ウッドショックの際に、想像以上に製材所に体力がついたということではないか。今後について、年度末の民有林からの多量の出材や大手商社・製材所における評価替え、4月以降の中小製材業におけるコロナ融資の返済による信用不安の影響を懸念している。

大手国内メーカーが米マツ製品を値下げしたことから、国産材製品を値下げするよう工務店等からの圧力がある。

○ 原木価格は下がっているがそれほど極端ではない。

減産を実施している東北の合板工場では、工場の休業日を土日だけでなく平日にも拡大し、カラマツの受け入れは停止している。現場に伐り控えを要請しているが、市場への出材は多く原木がもたれ気味となっている。

○ 年度末で原木入荷は順調な一方、製品の荷動きは鈍く、原木価格はスギ・ヒノキともに下がり気味。ウッドショック前の2021年3月より高いが推移を注視する必要がある。

資材価格上昇の影響で持ち家着工戸数が減少しているが、用いる製材品は外材から国産材へ一定程度転換が進んでいるといった調査結果もあり、国産材利用が継続されることを期待したい。しかし、今後、値上りした電気代などの製材工場の生産コスト増分は、製品価格へ転嫁されるのではないかと懸念している。

○ 全国的な傾向として、製材用素材は在庫量が急増し、入荷量が減少し続けている。合板用素材は入荷量、消費量が急激に落ち込み、かつ在庫量は高止まりといった状況。原木価格は下落

し始めたものの一定の水準を維持できているが、製品素材の需給の不均衡がいつ頃から大きく影響してくるのか注視が必要。製品価格の下落は継続しており、数ヶ月先の輸入ラミナ価格がコロナ前の水準に戻ったとの情報もあるので、今後も下落は継続するのではないか。国産材の競争力が試されることになる。

- 原木市場の今年度の入荷量、販売額の実績は、好調だった昨年度並みとなった。しかし、3月の共販では、出材された原木はほぼ完売したが、平均落札価格は、前月比でスギ柱材が-2,200円/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱材が-1,500円/m<sup>3</sup>と、一月で2,000円前後下落した。今後も緩やかに下落するのではないかと不安を抱えている。また、光熱費などのコスト増による収益圧迫を懸念している。
- 原木市場への入荷量は、例年並みで安定している。今後、融雪に伴い出材が増えてくると価格は下げとなる見込み。これまで引き合いの強かったカラマツ合板用材、輸出フェンス用のスギ大径材が、合板工場の受け入れ制限や輸出停止の影響を受けてだぶついており、売り先を探すのに苦心している。カラマツについてはなるべく出材しないよう現場に要請しているが、溢れたものは土木資材として安い価格で取引されてしまう。山側の丸太の伐出を安定的に実施していても、川下の住宅等関係の事情が川中の丸太の受け入れ側に反映されるまで数ヶ月のタイムラグがあり、伐出してしまってから材を受け入れられない、という状況になることが困るので、川下の情報が欲しい。
- 製材工場への原木出荷は順調だが、製材需要が落ちているため、原木在庫が積み上がりはじめている。ウッドショック時の輸入製品の在庫が依然として高水準のため、国産材製品は値下げしても引き取ってもらえない状況にある。木材市況が軟化し、輸入製品の在庫調整には時間がかかる見通しで、安値処分材も出始めていることから、2~3ヶ月程度価格低下が続くと考えられる。住宅販売の苦戦が続き、木造建築の多い分譲住宅、注文住宅が販売不振のため、木材業界は供給過多、在庫過多と苦しい状況である。
- 合板工場では、製品の引き合いが弱く、生産調整を継続している。原木の受け入れを制限しているが在庫過多となっており、調達は、合板の生産状況に合わせて行っている。原木の仕入れ価格は、現時点では概ね横ばいから下がりはじめの状況である。製品価格は、需要側からの下げ要請が強まってきており、年度末に向け当用買いが多いことから、下落もあり得る。住宅メーカーでは戸建て住宅の受注が減少し、リフォームが増加している状況である。非住宅関係は引き続き需要があるようで、5月の連休明けからは動きが出始めそうである。輸入合板の入港は減少しているが、出荷も減少しているため、港湾在庫は高水準で維持されている。
- 原木市場の入荷は年末から年始にかけて好調で、2月以降さらに増加している。スギ柱材の価格は先行き下げの気配があり、ヒノキ柱材は小動きしている。県内大手製材工場からの材が欲しいという要請には山土場からの直送販売で対応している。
- 運賃や人件費の上昇により、山側の丸太の生産コストも上昇している。これまでと同じ価格での販売は実質的に値下げになると感じており、需要側からは敬遠されるかもしれないが、よく説明をして、なるべく価格を下げないよう交渉したいと考えている。
- 製材工場では、例年、5、6月の丸太が不足する端境期は国有林材を調達して賄っており、その時期に丸太が出てこないと苦しくなる。難しいかもしれないが、供給調整を実施する場合は、差し迫ってではなく、端境期の需給に影響しないよう供給調整時期を秋季から年度末までの間で調

整するなど、ある程度先の需給情勢を見通した対応が必要と考える。